# すたんどばいみー
# 活動報告

(1) 活動総括

(2) 2015年度組織図

(3) 各教室の活動報告資料

1. 小学生教室
2. 家庭訪問
3. 中学生教室
4. 高校生教室
5. 社会人教室
6. 母国語教室
   1) 中国語教室
   2) ベトナム語教室
   3) カンボジア語教室
7. 外国人問題を考える会

# すたんどばいみー　２０１５年度　活動総括

2015 年度を振り返って日本社会は、外国人にとってどんな状況を作り出したのでしょうか。日本は戦後 70 年の節目を迎える中で、連日、全国の人が国会前のデモに参加しました。「憲法 9 条を壊すな」「戦争する国反対」「憲法 9 条守ろう」「暴挙許すな」「原発再稼働反対」「閣議決定撤回」など多くの人が反対の声を届けようとしたのにもかかわらず、安倍政権にはその声を聞く耳すら持たない姿勢を崩すことなく、議論を尽くさないまま多くの法案が強行採決されました。

アメリカに続けとも言える日本政府主導の戦争ムードがもたらすのは、中国や韓国・朝鮮の反日感情。それだけでなく、日本国内に住む「在日外国人」に向けたヘイトスピーチ。外国人の子どもたちは、より排外主義的なムードを無意識に感じ取り、外国人であることを隠して日本人への同化傾向がますます加速しているようにみえます。その同化は、日本名に変わっていくことだけでなく、外国人らしさを見せないように、日本人のように学校の中で従順でいること＝「良い子」とされ、反論する術を学ぶ機会を失っていきます。だから、最近の外国人の子どもたちに「どんなことに生きづらさを感じる？」と聞いたとしても、「別に自分は大丈夫。」と答える子は少なくないです。

外国人の問題を考える当事者として、外国人の子どもたちが学校や日本社会の中で押し込められていることに気付かせるには何が必要なのでしょうか。もちろん、日本人の家庭とは教育的資源に差があることがほとんどで、継続的な学習補充が必要です。それだけでなく、外国人である属性を隠さずに誇りをもって生きることができるように、きれいごとだけではない現実をどれだけ向き合わせていくことができるかも必要です。今年度も多くのサポートを得ながら、日々の学習補充教室や母国語教室だけでなく、日常的に地域にいて支えていく活動を続けていくことができました。

一方で昨年度から、すたんどばいみーは NPO 化に向けて新しい事業の立ち上げを計画しています。その事業の一つとして、新たに外国人の大人世代にフォーカスを当てていきます。今まで、大人世代の問題は、すたんどばいみーを支えてきてくれた Ed. ベンチャーなどの日本人の大人に相談して解決に導いてきましたが、立ち上げ当初は中学生、高校生だったすたんどばいみースタッフが社会人になり、今の親世代が抱える問題は自分たちの世代とより密接に関わる問題になってきています。まずは日本語教室から始めていき、その中で書類関係の相談、労働状況から起きる問題、家庭状況から起きる問題など、扱う問題は今までよりも多岐に渡ります。その中で子どもたちの背景についてより追っていくことを想定した活動の拡大及び新規事業の立ち上げを模索しています。

その手始めとして、今まで「ボランティアベース」で行ってきた「運動」を広く周知してもらえるように、団体を NPO 化しそれに向けた新事業の立ち上げをします。また、今までの活動に加え、より密接にこの地域に根付いていく必要があるため、運営や活動に専従していくスタッフが必要となります。活動だけでなく専従スタッフの生活も支えていくためには、より多くの人にこれから会員となって頂いたり、事業へのサポートして頂いたり、などと考えています。新自由主義の考え方が広まっていけば、ますます書類や言語解釈の面で自己責任の中で見放されていくことが多くなっていきます。だからこそ、これからも外国人の生きづらさを乗り越えていくためにも我々だけでなく、皆さんの支えが必要です。今後とも、すたんどばいみーへのサポートをよろしくお願い致します。

## 2015年度　すたんどばいみー組織図

■運営委員／係

| 代表 | 副代表 | 会計 | 会場・基金の会窓口 | 助成金・広報 | 管理(倉庫/データ/HP) | NPO化 | レジャー |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 宮脇 英理 | チャン ソワンナリット | チャン ソワンナリット<br>伊藤 瑞姫 | 宮脇 英理<br>チャン ソワンナリット | チューブ サラーン<br>伊藤 瑞姫 | 劉 麗鳳<br>馬場 貴司<br>フィンティ | チャン ソワンナリット<br>長畑 シゲミ<br>西岡 歩 | チューブ ソッケム<br>西岡 歩<br>馬場 有希<br>グエン タン ティン |

### 子どもを支える事業

**<小学生の部>**

担当：宮脇 英理・伊藤 瑞姫
会計：清水 まなと

小学生教室

家庭訪問
(グエン ニャットトゥイ)

**<中・高学生の部>**

担当：劉 麗鳳・チューブ サラーン
会計(中学生教室)：フィンティ
会計(高校生教室)：チューブ ソッケム

中学生教室

高校生教室

**<東日本大震災子ども支援>**

担当：宮脇 英理・チューブ サラーン
会計：伊藤 瑞姫

東日本大震災子ども支援

### 大人を支える事業

**<O.G.Bの部>**

担当：チャン ソワンナリット・長畑 シゲミ
会計：馬場 有希

社会人教室

### 外国人問題を考える会

担当：劉 麗鳳・チューブ サラーン

外国人問題を考える会

・総会
・外国人問題を考える

### ルーツを考える事業

**<母国語>**

会計：伊藤 瑞姫

ベトナム語教室
(担当：宮脇 英理・フィンティ)

中国語教室
(担当：伊藤 瑞姫、劉 麗鳳)

カンボジア語
(担当：チューブ サラーン)

| 事業名 | 小学生教室 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 教室代表 | 宮脇英理、伊藤瑞姫 |
| 会計 | 清水真飛 |
| スタッフ | グエンカオウエンニー、劉麗鳳、チュープサラーン、フィンティ(～12月まで) |
| 対象者 | 就学前、小学生 |

■開催日程

4月11,18日 5月2,16,23,30日 6月6,13,20,27日 7月4,11,18,26日 8月8,15,22,29日 9月5,12,19,26日 10月10,24,31日 11月7,14,21,28日 12月5,12,19日 1月9,16,23,30日 2月6,13日 (予定:2月28日 3月5,12,26日)

計 28回 (予定 : 計32回)

■参加人数 (のべ人数)

| | |
|---|---|
| スタッフ | 200人 |
| 対象者 | 692人 |

■事業外イベント (開催した年間イベント)

| 日程 | イベント名 | 開催地 | 参加人数計 |
|---|---|---|---|
| 7月11日 | 低学年 牧場遠足「関口牧場」 | 渋谷中学校 | 24人 |
| 8月1・2・3日 | 小・中学生合同夏キャンプ | 中津川キャンプ場 | 42人 |
| 9月26日 | 低学年 調理 | 渋谷中学校 | 37人 |

■活動内容

小学生教室は、前半の90分を就学前から3年生、後半の90分を4年生から6年生に分けて運営をした。前半の子ども達は、参加人数が多いことからスタッフを固定にして、継続して子どもの様子や学習が見れるようにした。後半は、高学年の子どもということもあり、スタッフを固定にするのではなく、様々なスタッフと関われるようにした。

イベントでは、前半と後半の子どもに分けたイベントと子どもたち同士が関われるようなイベントを行った。前半の子どもを対象にしたイベントは7月の牧場遠足である。牧場遠足は、身の回りにある食べ物はどこから来たのという食育について学んでほしく、牛をキーワードにした。事前学習では、給食の話から牛乳やお肉につなげて学習をした。そのなかで、それぞれの子どもの国の牛の種類の話もした。遠足では、子どもが偏食であることが分かり、野菜と牛乳を使った調理を行った。後半の子どもを対象にしたイベントは中学生教室と合同行ったキャンプである。合同のキャンプの意図は、①地域のお兄さんやお姉さんを知ってほしい、②塾などの通いごとに行き始めてばいみーの活動から離れて行ってしまう高学年に、中学生教室があることを知ってほしい、ということである。

合同イベントは、12月の終わりにお楽しみ会を行った。お楽しみ会では、音楽をテーマに子どもたちがグループに分かれて練習をし発表を行った。

■様子および成果

子ども達に事前の呼びかけを徹底することで、低学年の参加状況は継続して前半の教室に10～15人程度の子どもが参加していることは成果である。一方で、高学年の参加状況は5人程度である。4・5年生の参加は見られるが、6年生の参加は見られなくなっている。その要因として、高学年になると保護者が塾に行かせ、子どもの活動範囲が以前よりも広くなっていることがあるのではないかと考えられる。教室に参加しなくなった子どもは、①塾で日々勉強をしていることから友達と遊びたいということ、②塾以外の習いごとで居場所にできる場所がある、ということから教室に来ないことを選択していると考えられる。

学習面では、2つ見えてきたことがある。ひとつめに、就学前の子どもの学力が高くなっていることである。小学生教室が就学前も視野に入れようと思った時の子どもは、50音表は読めなく、数を数えたりできていなかった。しかし、近年の就学前の子どもは、50音表をかけなくても読めていたり、数を数えることができたりしている。教室で見ていることもあるかもしれないが、基盤として保育園の役割が大きく影響しているのではいかと思われる。そのため、子どもの学びによって小学校就学時に差が大いにみられてしまうことがあるのではないかということが懸念される。ふたつめに、支援級に通級している子どもと普通級の子どもの学力の差である。小学生教室では、支援級の子どもの学力を課題としてきたが、今年度は小学1年生から学力の差が顕著にみられている。

前半の子どものイベントでは、子ども達に偏食があることを知れたことで、次のイベントに繋げられた。事前学習では、子どもが教室で学んだことを保護者に伝えるなどしている様子があった。後半の子どものイベントでは、小学4年生の子どもの保護者が、長期外泊が心配であることで参加ができなかった。対象学年の配慮ができていなかった。参加出来た子どもは、事前準備で中学生教室に参加したり、中学生と関わる様子が見られた。キャンプ当日は、中学生と一緒に遊んだり、行動したりしていた。

■課題・次年度に向けて

子どものなかで、学力の差が顕著にみられている分、他の面で伸ばしてあげれらる能力を探りながら授業展開をしていく必要がある。イベントでは、子どもに企画運営するイベントをつくり、提供されるイベントではない機会をつくる。高学年は、遠出もしくは外泊するようなイベントを組み、高学年のためのイベントをつくる。

| 事業名 | 家庭訪問 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 教室代表 | グエンニャットトゥイ |
| 副代表 | 劉麗鳳 |
| 対象者 | ベトナム人男児T、Tの兄 |

■開催日程

4月13,27日　5月12,26日　6月9,13日　7月7日　8月4,18日　9月1,15,29日　10月13,27日
11月10,17日　12月1,17日　1月12,28日

計20回

■参加人数（のべ人数）

| | |
|---|---|
| スタッフ | 27人 |
| 対象者 | 40人 |

■事業外イベント（開催した年間イベント）

| 日程 | イベント名 | 開催地 | 参加人数計 |
|---|---|---|---|
| | | | |

■活動内容

今年度の家庭訪問は前年度に引き続き、支援級に通級するTを対象に行った。小学生教室に参加しなくなったTを教室につなげる役割として家庭訪問を位置付けつつ、学習補充を行う活動をした。学習補充は、学校や家庭の中で起きたことをTと日記にまとめたり、Tの実際の学習レベルに合わせた学習教材を用いて勉強を行った。

■様子および成果

学習補充は、学校や家庭の中で起きたことに日記にまとめることで、Tくんの語彙を増やしたり、身の回りで起きてることを整理することができた。また、支援級での学習レベルに合わせるだけでなく、教材を用意することで、Tくんの実際の学習レベルに合わせて勉強を行えた。

年度の後半からTは教室への参加が定着するようになり、教室のほかの小学生とともに学習を行うことで教室内での人間関係の構築も測ることができた。その背景としては、家庭訪問でスタッフと関係が構築できたからであると思われる。年度前半では、スタッフの小学生教室への呼びかけを軽くあしらっていた様子があったが、年後後半では、「行くからね！トゥイも来てね」と言ったような変化がみられた。

その変化の一方で、家庭訪問を通して家庭内の不安定な様子も見られた。例えば親の大変さがそのままTの生活習慣や精神面に影響することである。そのため、Tの変化に敏感にならなければならない。

■課題・次年度に向けて

Tはあと1年で中学校にあがるため、次年度は進路やそれに伴う困難を充分に想定したうえで、活動内容を組み立てて行く必要がある。また、不安定な家庭内の状況のなかにいるTを引き続き見守って行く必要がある。

| 事業名 | 中学生教室 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 教室代表 | 劉麗鳳 |
| 副代表 | チュープサラーン |
| 会計 | フィンティ |
| スタッフ | 宮脇英理、伊藤瑞姫、シットウドム、清水まなと |
| 対象者 | 中学1～3年生 |

■開催日程

4/14.21.28,5/4.11.18.25,6/1.8.15.22.29,7/6.13.20.27.29.31,8/10.17.23.9/7.14.21.28,10/5.12.19.26,11/2.9.16,12/1.7.14.15.1/11.13.19.25.27.2/1.8.9.10

計 45 回

■参加人数（のべ人数）

| | |
|---|---|
| スタッフ | 202人 |
| 対象者 | 292人 |

■事業外イベント（開催した年間イベント）

| 日程 | イベント名 | 開催地 | 参加人数計 |
|---|---|---|---|
| 8月1, 2, 3日 | 小中学生合同夏キャンプ | 中津川村キャンプ場 | 42人 |
| 12月26, 27日 | 勉強合宿 | 野島青少年センター | 27人 |

■活動内容

・活動対象：中学生教室は主に中学校1年～3年生の外国にルーツを持つ子どもを対象に、学習・生活支援及び進路相談を活動内容としている。2015年度の教室では中1が4人、中2が3人、中3が7人の総計13人が今年度教室に参加した。うちベトナム6人、中国3人、カンボジア2人、ペルー2人、日本1人である。
・活動内容：普段の教室活動のほか、4月に教室のオリエンテーション、8月には小中学生の合同キャンプ、12月には進路ガイダンスや勉強合宿などのイベントを行い、そのほかスポーツや映画鑑賞などの小イベントを行ってきた。またそのほか中3の受験生に関しては高校見学の付き添いなども行った。

■様子および成果

・発達障害と外国人性：中1の子どもをめぐり、保護者と面談をしたり、Edベンチャーの先生や市の教育機関と打ち合わせを行ってきた。発達障害を抱える外国人の子どもの場合、保護者との関わりを含めて外国人性よりも発達障害であることが見られている。子どもの言動を間違えて理解したり、保護者の心配を充分に汲み取ることができないなどの様子があった。このような発達障害を抱える外国人の子どもへの支援は当団体でも初めてのことであり、そのため支援の方法を模索したり、ほかの支援者と情報交換や打ち合わせなどを行っている。
・異年齢集団：今年度のキャンプは、小学生も含めて異年齢異集団のキャンプを試みた。普段の教室では見られない子ども間の関係、またみんなが参加する新しい集団の形が見られ、集団の枠が子どもの参加を狭めるということがキャンプを通して明らかになった。しかし、異年齢集団であるがゆえに、小学生の参加を考慮するキャンプのプログラムを考える必要があったことが反省としてある。
・学習に向かわない子：中3に関しては受験に近づき、新しい参加者が増えた。高校進学ガイダンスにおいてばいみースタッフの高校進学時にかかわる経験談を聞いたり、スタッフとの高校見学を重ね、勉強合宿では参加中学生が受験に向けて集中的に受験勉強を行ってきた。中3の中には、小学校の時の帰国により漢字を苦手とするがゆえに学習をあきらめる子、また特別な家庭の事情（会話が通じない祖父母との生活、親が障害を持つ）により学習に集中しくい子もいる。さらに、中学校1年生でありながら父親に高校進学を反対されている子、あるいは進学に意味を見出さない子など、学習から遠ざかっている中学生の様子が見られた。その背景には中学校の進学により、学習の進度についていけなく、周りからも十分な支援がないことが考えられる。また、不安定な家庭環境の中で親からも進学の意味づけがなされていなかったり、進学するだけの資源がないがゆえに子ども自身もあきらめてしまうことが考えられる。

■課題・次年度に向けて

次年度では新しい中学生の参加を誘いつつ、学習に向かわない中学生の様子やニーズを充分に汲み取り、活動の中でできることを考え、必要に応じて親と学校の先生とも話す場を設ける必要がある。

| 事業名 | 高校生教室 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 教室代表 | チュープサラーン |
| 副代表 | |
| 会計 | チュープソッケム |
| スタッフ | ナリット、歩、みずき、エイリ、麗鳳 |
| 対象者 | 高校生(K,F,FO) |

■開催日程

4月11,18日 5月2,16,23,30日 6月6,13,20,27日 7月4,11,18,26日 8月8,15,22,29日 9月5,12,19,26日 10月10,24,31日 11月7,14,21,28日 12月5,12,19日 1月9,16,23日 2月6,13日

計27 回

■参加人数（のべ人数）

| | |
|---|---|
| スタッフ | 81人 |
| 対象者 | 30人 |

■事業外イベント（開催した年間イベント）

| 日程 | イベント名 | 開催地 | 参加人数計 |
|---|---|---|---|
| | | | |

■活動内容

進学の相談及びアドバイス、大学見学の付き添い、勉強計画の補助、生活アドバイス

■様子および成果

本年度は3名の参加があった。まず、定時制に通うKである。Kは、定時制の高校に進学したので、彼が通えるようにと、高校生教室の開催を土曜日の夕方以降に設定した。しかし、なかなか活発に教室への参加は見られず、家にただいるあるいは弟の世話などで参加が徐々に減っていった。今は父が経営している会社でアルバイトをしながら学校に通っている。

次に、高校生Fについては、大学受験をし、指定校推薦にて私立大学の情報科に無事受かることができた。大学選び、指定校推薦のための面接練習を行う中で見られた様子として、自立的に考えること・能動的に動くことが難しく、最後まで本人は切羽詰まるほどの緊張感を持ちえずにいた。何もやらなければ大学に受からないこと、自分の意志をしっかり伝えられなければ指定校推薦でも落ちる可能性があることが身に感じるほど想像できないでいた。合格後しばらくして年が明けてから、Fとの連絡が途絶えた。すたんどばいみーの中で今自分に抱えきれない仕事や課題から離れたいからといっていたが、Fにとって今までなぜ活動を続けてきたのかを問い直す機会となった。現在は少し話すことができている。Fとの話の中で、「将来働くことになって、明日からクビねって言われたらどうするの？」と聞くと、「はい、わかりました。って言っちゃうだろうね。」と、F自身はこれから力を付けていかなければならないことを痛感していた。今後も社会に使われるだけの外国人となってしまわないようにしていくには何が必要かを問いかけ、少しずつ何か変えていくきっかけを探っていきたい。また、まだ大学生活を乗りきれる力をつけられていないため、今後も継続的な関わりが必要だとみられる。

最後に、FOについてであるが、進路相談で高校生教室に久しぶりに顔出したFOに対し6月下旬から進路支援を行ってきた。最初、大学を就職するための踏み台としか考えていなかったので大学とは何か、学部の違いでどう学ぶことが違うかなどを学んでいった。それと、平行して大学入試のための小論文の練習をした。学習面の指導も行い、中学生の学習から復習をしていった。また、オープンキャンパスではメモの取り方などの方法を教えた。その後、学力を考慮し、専門学校に行くこととなった。専門学校を選ぶ上でも、学問、就職先の幅を狭めないようにすることを大切にして選んでいった。そして、1月下旬に合格が決まった。合格が決まり、ばいみーから離れて行くことが予想されるので定期的に連絡をとっていきたいと思う。 本年は、3名の不定期であるが参加があった。いずれも進学したばかりの生活設計や進路を考える時になったころにようやく教室として可動したように思われる。その他の開催日では、イベントや話し合いの場として使われていた。本年の目標として、高校生教室で「広い世界や視野」を持って対象者と教室運営をすることが目標だったが、それは果されなかったので、次年度の教室運営を改めたいと思う。

■課題・次年度に向けて

毎年参加人数が少ないので、社会人教室との統合を考えた巻き込みを考える。そこにいて、学校では学ばない社会の仕組みや労働、外国人問題に関連した学習や社会見学を考えて行きたい。

| 事業名 | 社会人教室 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 教室代表 | チャン ソワンナリット |
| 副代表 | 長畑 シゲミ |
| 会計 | 馬場 有希 |
| スタッフ | チャン ソワンナリット<br>チューブ ソッケム<br>馬場 有希<br>長畑 シゲミ<br>西岡 歩<br>馬場 貴司 |
| 対象者 | 高校生、大学生、社会人 |

■開催日程

8/9, 12/19

計 2回

■参加人数（のべ人数）

| | |
|---|---|
| スタッフ | 8 |
| 対象者 | 6 |
| 計 | 14 |

■事業外イベント（開催した年間イベント）

| 日程 | イベント名 | 開催地 | 参加人数計 |
|---|---|---|---|
| | | | |

※なし

■活動内容

2015年度は定期的に活発化できるように方針を立てたが、実施したのは2回の開催にとどまった。メンバーの欠落や天候により開催できなかったが、その他に山登りや都心の外国人の集住地である新大久保の見学を企画した。
普段教室では顔を合わさない、すたんどばいみーから離れた外国人とのつながり・接触や、社会人同士のコミュニケーション活性化を狙い、レジャーをすることを図った。実施した2回のうちスポーツが1回とマイナンバーの学習会が1回である。
スポーツはレジャーとしてボルダリングの体験を行い、マイナンバーの学習はマイナンバーとは何なのか、生活にどういった影響を及ぼすのか、どういう手続きで受け取れるのかという基本的な知識の勉強を行った。

■様子および成果

通知カードの受け取りをまだ誰も行っていなかったり、マイナンバーが社会保障と関わっていること、なぜ必要なのかということが認知されていないことが分かった。
こういった社会制度の変化や状況、生活との関わりを具体的にあげ、知識をしっかり身につけることは今後も重要な点だと言える。
目的としていた、外国人の就労に関わる課題を提議する、社会人のコミュニティを形成していくことにあまりフォーカス出来ないままとなった。

■課題・次年度に向けて

活動が形骸化してきているのを課題とし、もう一度方針ややり方を検討する。
今後はブラック企業現場と外国人の就労に関わる問題について考察していったり、社会との接続が難しい、苦しんでいる外国人のサポートなど人を巻き込んでいけるような活動としていきたい。開催できないでいたレジャーもまた行うようにし、外へ出ること、新しい体験・経験を得れるように柔軟に行動していきたい。

| 事業名 | 中国語教室 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 教室代表 | 伊藤瑞姫 |
| 副代表 | 劉麗鳳 |
| 会計 | 伊藤瑞姫 |
| スタッフ | 伊藤瑞姫、劉麗鳳 |
| 対象者 | 中国人の小中高生 |

■開催日程

約4回にわたって不定期に開催した。

計 4回

■参加人数（のべ人数）

| | |
|---|---|
| スタッフ | 8人 |
| 対象者 | 0人 |

■事業外イベント（開催した年間イベント）

| 日程 | イベント名 | 開催地 | 参加人数計 |
|---|---|---|---|
| | | | |

■活動内容

今年度の中国語教室では、「中国残留孤児の歴史」について、スタッフによる書籍の購読をしたり、中国語教室の参加者を集める活動を行いました。

■様子および成果

「中国残留孤児の歴史」についての学習会では、自分たちのルーツにあたる残留孤児に関する歴史の書籍を読み、知らない祖父母世代の歴史について勉強しました。
また、教室参加者を集める活動をしました。6月と10月の団地祭りにてチラシを祭りの参加者に配布したり、いちょう団地内にチラシの配布も行いました。また、知り合いの方の口コミを通しても教室の宣伝を行いましたが、新規の教室参加者希望者がいませんでした。参加者が集まらない背景には、中国人の親族のコミュニティ内でつながりが強く、外に求めるニーズを感じることがないので、親族のコミュニティから脱出することが難しいことが考えられます。また、日本人化しやすいがゆえに、中国語や中国コミュニティに意味を見いだせないことも仮説として考えられます。

■課題・次年度に向けて

来年度も活動の周知を続けて行っていきます。参加希望者がいたときに教室を開催する予定です。

| 事業名 | 母国語教室　ベトナム語 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 教室代表 | 宮脇英理 |
| 会計 | 伊藤瑞姫 |
| スタッフ | グエンカオウエンニー、ウエン、フィンティ(～12月まで) |
| 対象者 | ベトナム人の子ども |

■開催日程

4月11,18,25日　5月2,16,30日　6月6,13,27日　7月4,18,25日　8月8,15日　9月12,19,26日　10月24日
11月7,14,21,28日　12月11日　1月9,16,23,30日　2月6,13日　（予定：3月12,26日）

計29 回(予定:31回)

■参加人数（のべ人数）

| | |
|---|---|
| スタッフ | 227人 |
| 対象者 | 74人 |

■事業外イベント（開催した年間イベント）

| 日程 | イベント名 | 開催地 | 参加人数計 |
|---|---|---|---|
| 9月12日 | ベトナム語劇「白雪姫」 | 渋谷中学校 | 26人 |
| 1月16日 | 餅パーティ | 渋谷中学校 | 11人 |

■活動内容

日本生まれで日本育ちの子ども達の第一言語は日本語なので、教室内で日本語を中心にしながらも、ベトナム語を使い話すようにしている。教室では、昨年度に計画していた劇「白雪姫」の発表に向けて練習をした。子ども達は発表に向けて、背景や小道具の作成、ベトナム語でのセリフの練習を行った。9月には、発表を迎えることができた。その後の教室では、新規の子どもが増えたので、ベトナム語のアルファベットの学習を行った。お正月には、それぞれの家庭の過ごし方やお正月にベトナムで食べる料理の話をした。話のなかで、子ども達から、お餅を食べていないということを聞き、教室で「餅パーティー」を行う企画をした。代表の父親の協力を得て、子どもたちがベトナム語で挨拶や、お餅をもらえるようにお願いをすることができたらお餅を手に入れられるという課題を出した。子ども達は、手に入れたお餅でお餅パーティーを行った。アルファベットの学習が終わった後は、四季や天気の学習など、見のまわりの現象や物についての学習をしている。

■様子および成果

子どものなかでベトナム語の理解に差があるようにみられるが、日本語を中心にしてベトナム語を話しているので、話せない子どもは苦痛に感じている様子はなく、話せる子どもは「分かるよ！」と率先して話している空間を作ることができた。
9月の発表では、呼びかけた子ども達の保護者や運営スタッフが観客として来てくれ、きんりんに遊びに来ていた子どもも、発表を観ていた。教室の子ども達は、恥ずかしながらも練習通りに演じていた様子だった。また、劇を長い時間をかけて練習をしてきたので、子どもたちは発表を迎えて満足していた。
その後、新規の子どもが口コミから参加し始めた。その一方で、近隣の小学校のベトナム語クラスに参加している高学年の子どもが、学習の場をかけもちすることが大変だという理由で、教室には来なくなった。学習では、昨年度は子どもの進度が違い、グループによって分けていたが、今年度はみなが同じスタートラインなのでグループを分けずに進めている。
正月の餅パーティーでは、新しいメンバーでのイベントだったので、それぞれの役割りを持ちながら、パーティーに向けて課題をこなすことでまとまりがみられた。普段の教室で、ベトナム語を話すことに恥ずかしさがある子どもが、ベトナム語を話す練習になった。

■課題・次年度に向けて

劇の練習を長引かせてしまったので、当初目的としていたルーツを学ぶ機会をつくれていない。そのため、2016年度は、自己紹介シート(ベトナムの名前、両親の名前、ベトナムに帰国した回数など)の作成や、ベトナムの写真などを使い、ベトナムにまつわる学習をしていきたい。他に、餅パーティのように大人を巻き込むような学習機会を作っていきたい。

| 事業名 | カンボジア語教室 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 教室代表 | チュープサラーン |
| 会計 | 伊藤瑞姫 |
| スタッフ | |
| 対象者 | |

■開催日程

なし

計 0回

■参加人数（のべ人数）

| | |
|---|---|
| スタッフ | 0人 |
| 対象者 | 0人 |

■実施イベント

| 日程 | イベント名 | 開催地 | 参加人数計 |
|---|---|---|---|
| | | | |

■活動内容

対象者がいなかったため、開催していない。

■様子および成果

なし

■課題・次年度に向けて

小学生教室にカンボジア人の姉妹の参加があり、教室内でカンボジアを話す様子がみられる。そのため、次年度から姉妹を誘って教室を開催しようと考えている。

| 事業名 | 外国人問題を考える会 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 教室代表 | チュープサラーン |
| 副代表 | 劉 麗鳳 |
| 会計 | |
| スタッフ | |
| 対象者 | |

■開催日程

11月8日　12月19日

計　2回

■参加人数（のべ人数）

| | |
|---|---|
| スタッフ | 18人 |
| 対象者 | |

■事業外イベント（開催した年間イベント）

| 日程 | イベント名 | 開催地 | 参加人数計 |
|---|---|---|---|
| | | | |

■活動内容

会で検討する課題やテーマの検討、文献講読の選定

■様子および成果

本年新たに立ち上げた学習会であり、日本社会で外国人問題を立ち上げる事を目標にした。私たちが暮らす日本社会は、様々な変化を迎えており、それらの変化は外国人にとってますます生きにくくなっている。外国人を排除する声が街角で聞こえるようになり、安保法案の成立によって私たちの親・祖父母の世代で経験する戦争が身近になり、2020年のオリンピックに備えて建築業界などの底辺の仕事を引き受けるのは外国人…などなど。これらの変化がもたらす大変さにもっとも近くにいるのは外国人であることが考える。そのため、日本における外国人の位置を日本社会に提起していく事が一層求められる。

そのため、第一回の集まりでは①外国人問題を考える会に参加する者たちの問題関心の整理し、学習会を進めるための日程や分担を決める。②参加者のテーマ関心とばいみーがこれから展開する運動の模索を目的として、以下のテーマが考えられた。

【テーマ】
①外国人を取り巻く社会状況
Ex.　ヘイトスピーチ、外国人に対する差別と排除
②貧困と子ども
Ex. 家庭の貧困と子どもの教育問題、個別事例
③労働問題
Ex. ブラック企業や労働の問題を知る、社会人の労働環境（最低賃金かどうか、労働条件、労働組合）
④在日の歴史を知る
世代間葛藤の歴史的変遷について学習する

2回めは、文献を持ちよりどの本を講読するか検討した。
本年は、勉強会のテーマ決めだけで終わってしまったので、次年度はそれを具体化し勉強会の開始をしたい。

■課題・次年度に向けて

昨年決まったテーマをもとに学習会や必要性にともない、講師を依頼する。